



毎年実施しているJASA国際交流委員会主催の海外視察研修で、2025年はインドを訪れ、JASA会員14社総勢22名の参加があった。オ

フショア開発と人材活用のビジネスパートナー発掘に役立てることを主目的としている視察であるが、特に2025年は日本での就労を希望する優秀なインド人材を探し出す活動も、具体的な目的の一つに加えている。

今回訪問した大学4校では、学生に対してQRコードを通じたアンケート回答を依頼し、この結果をもとにインド人材の採用を希望するJASA会員企業と学生を結びつける新たな仕組みも構築した。



国際交流委員会委員／  
一般社団法人 J-TEA代表理事  
大津 健二

### 【訪問先概要】

以下訪問した大学や企業、協会団体等について、見聞した内容を紹介する。

#### 1日目 羽田 → Delhi移動

国際線 インド入国

#### 2日目 Delhi

##### JETRO New Delhi

毎年の海外視察で最初に訪問するのが現地のJETROであり、今回は現地インドでのビジネスの現状を広く聞くことが出来た。所長のスピーチで、最近のインド産業で改めて強く意識した事を挙げると、

- ・コロナの影響が世界一大きく、経済も落ち込んだが、その後V字回復ができています
  - ・現在の注目産業はEVと半導体である事
  - ・日系企業は8割が黒字で事業拡大方向である事
  - ・最近のインドでは、人件費の高騰、離職率の高さが大きなリスクになっている事
- など、良いお話を聞けた。



##### ESC

(Electronics and Computer Software Export)

インド政府が後援する、インドで最も活発な貿易機関の一つであり、インド国内の2,500社を超える会員企業の、電子機器及び



IT製品の世界展開に大きな役割を果たしている。JASAとESCは、2000年にMOU(基本合意)を結んだパートナーであり、今回の訪問により、相互理解と協力関係を更に深めることを確認した。

##### Amity University

我々の訪問を大歓迎で迎えて頂き、日本との交流に期待感が大きい事を感じた。これは他の大学訪問でも同様であった。アミティ教育グループは、13の大学と28の学校・幼稚園で、20万人以上の学生を育成している。その最大拠点が今回訪問したデリーのアミティ大学で、デリー最大の私立総合大学である。

大学はロンドン、ドバイ、ニューヨークその他、世界の都市にキャンパスがあり、留学生も多く交換して、グローバルな活動をしている。



#### 3日目 Delhi → Chennai移動

国内線

##### CICPL

(Chromatography and Instruments Company Private Limited)

JASA会員企業であるCICのインド子会社である。インドのIT人材とソリューションを活用しながら、ITサービスを展開している。特にAI(Deep Learning)や情報セキュリティの分野へ注力して、活動の幅を広げている。

人材採用においてコスト(特に初年度の年収や昇級率など)について、具体的な質疑を行うことができたのは有益であった。

##### ABK-AOTS DOSOKAI

JICAを通じ日本企業で研修を受けたエンジニア、経営幹部などが自主的に設立した団

体である。2025年で設立50年を迎え、チェンナイでインド人材に日本語教育を行っていると共に、日印の間の言語、文化、技術、貿易、ビジネスの架け橋となる活動を行っている。

現在日本語教育を受けている学生や勤労者と、直接コンタクトをとる事ができたが、日本語のスキルは想像以上で、かつ日本での勤労意欲が高い人材が多くいることに驚きを感じた。



#### 4日目 Chennai

##### VIT

(Vellore Institute of Technology Chennai)

チェンナイにあるインドを代表する私立工科大学の一つで、19の学部課程、18の大学院課程、更に工学・経営学・理学言語学分野の博士課程、工学分野の総合博士課程などを備えている。特に電子、コンピュータ、エネルギー分野に定評があり、日本語学習プログラムも提供しているため、近年は日本企業への就職を目指す卒業生が増加している。

学生数は6,500人ほどであるが、海外交流大学(協定校)は30校以上、留学生は1,200人とのことで、グローバルな活動を推進している。



##### CIT

(Chennai Institute of Technology)

2010年に設立された工科系私立大学で、学生数は6,000人以上との事。情報工学の学科が重点だが、他にも機械や電気・電子工学等の学科も開講しており、工科系大学でありながら、日本語や日本文化等の教育にも積





的に取り組んでいる。

大学側の説明の後、日本で仕事を希望する学生と直接面談会が行われ、我々訪問者が1人ずつ、学生1人とテーブルを挟み面談した。



## 5日目 Chennai → Bengaluru移動

国内線

### SIT

(Siddaganga Institute of Technology Tumkur)

地元の工科系私立大学で学生数4,400人の規模であるが、他に132の教育機関があり、9,000人の子供に教育と宿泊を無料で提供している、とのことである。学生への教育と共に教員のレベルアップにも力を入れ、博士号取得を支援している。

大学構内にある、企業が支援する学生の研究室を見学した際に、ルネサスの開発キットを使ったデモの一つとして、人体の動きを複数の直線で梯子状に表示するソフトに、関心が集まった。



### System Consultant Information India

2003年にベンガルールを拠点とする日系IT企業に資本投資、2005年に現地法人設立、2009年には地元トムクールに自社ビルを竣工する、といった沿革を持つ日系企業である。日本からの保守運用プロジェクト請負開

発を中心に、活動を行っているが、日本企業がインドで仕事をするために必要となる、日本の文化や仕事の進め方などを理解するための、様々な社内研修を実施している。

トムクールはベンガルールに比べ地方ということもあり、都市部で育成した人材が流れていく現実もあるが、地方ならではの近隣の大学との連携が取れるなど、有益な面もあるとの事。



## 6日目 Bengaluru

### STPI

(Software Technology Parks of India)

ベンガルールのソフトウェアテクノロジーパークを見学した。インド政府が主導し強力に支援する中で、多くのソフトウェア製品開発の企業と、優秀な技術者が集結している。IoT、AI、ロボット、医療、その他多くの分野のソフトウェアを開発し輸出している。

ここでは革新的なテクノロジー製品や、ソリューション構築するために必要なラボなどが整っており、特にスタートアップ企業が活



## 【感想】

広いインド国内11か所を訪問する、かなりハードな行程となったが、インドの目覚ましい発展を実感する、有意義な視察であった。

先ず現在のインドの街の状況であるが、  
・新しいきれいな街並みと、ゴミだらけの街並みが混在している様子  
・交通マナーの悪さ、大気汚染  
・野良犬だけでなく、野良牛が町で自由に闊歩している  
など、まだ先進国とは言えないが、10年前の中国と似ているところも多いように感じた。

そんな街中も通リながら各訪問先を訪ねたが、そこでは半導体やAI、IoTなど、成長



しやすい環境が整備されている。同様なSTPIはインド国内各地にあり、全体で開発されたソフトウェア輸出は、インド全体の50%を占め、今後更なる発展が期待されている。

### NEC India

ソリューションサービス事業を提供しているNECのインド会社。ICTを活用した通信、交通、物流、製造ラインのDXなど、幅広い分野でインド政府や企業に貢献している。

NECの持つ技術をフル活用した海底ケーブルの設置と、これを利用した通信ネットワーク構築の事例が紹介され、日本の会社ならではの強みを改めて感じた。

本社はデリーにあるが、インド各地に拠点を展開しており、今後のインド発展と共に事業も拡大すると思われる。



## 7日目 Bengaluru → 成田移動

国際線 帰国

が見込まれる産業へのインド企業の投資と熱意、そして国の強力な支援体制が感じられた。人口が多く若いインドの将来は、GDPでいずれ中国と肩を並べる存在になるのは、間違いないであろう。また大学も4校訪問したが、エンジニアとしての実践的教育を受ける、将来有望な学生が多くいることも改めて実感できた。

今回の視察は、今後インド人採用のための具体活動にも役立つと思う。

最後になりますが、今回の視察の企画や訪問先などの調整準備に、多大のご苦勞をされた方々に、改めて感謝をいたします。